

SHIONOGI DATA SCIENCE FES 2026

# データとともに進化する 社会の“日常”

SHIONOGI DATA SCIENCE FESは、塩野義製薬株式会社 データサイエンス部が主催するオンラインセミナーです。2023年から毎年開催しており、第4回となる今回は「データとともに進化する、社会の“日常”」をテーマにお届けします。

生成AIの普及により、データ活用は研究・医療・ビジネスにとどまらず、日常の意思決定や業務の一部になりつつあります。いま求められているのは、データをどう使い、どう扱うべきかという判断と運用を磨き、責任ある形で社会実装へつなげていくことです。

当日は、業界の第一線で活躍する講師のご講演に加え、当社データサイエンス部の実績や経験談もご紹介します。

参加者の皆さまの「知りたい」「伝えたい」「やってみたい」を後押しする機会となれば幸いです。

## 開催概要

- |      |   |
|------|---|
| 日時   | 2026年3月19日(木) 10:00 ~ 16:10   |
| 参加費  | 無料  |
| 参加上限 | 3,000名 ※ Zoomの入場上限に達した場合、参加申し込みされていても入場できません。   |
| 参加方法 | <a href="#">Peatix</a> から事前申込をお願いします【申込期限：2026年3月18日(水) 15時】<br>参加URLは申込者にイベント前日にお送りいたします。<br>※ 所属先が確認できない方は、参加をご遠慮いただいております。 |
| 主催   | 塩野義製薬株式会社 DX推進本部 データサイエンス部  |
| 開催形式 | オンライン開催（Zoom Webinarでの開催）※イベントの出入りは自由です。  |

開始	終了		講演テーマ	所属	登壇者
10:00	10:15		オープニング	塩野義製薬株式会社	三春 洋介
<b>Session1：データサイエンスの最前線</b>					
10:15	10:45	<b>基調講演1</b>	AIエージェントが進化する時代の企業の再創造について	アクセンチュア株式会社	保科学世 氏
10:45	11:05	<b>講演1</b>	新生SHIONOGI創薬研究におけるデジタル活用（ケモインフォマティクス）	塩野義製薬株式会社	浅木 敏之 立花 裕樹 畑 貴広
11:05	11:20	<b>講演2</b>	SHIONOGIにおける研究DX	塩野義製薬株式会社	森本 健太郎
11:00	11:35	<b>講演3</b>	AIを用いた医薬品の開発/育薬におけるプロセスの効率化	塩野義製薬株式会社	松野 匡志 米田 卓司
11:35	11:45		休憩		
11:45	12:15	<b>基調講演2</b>	量子技術の現在地と産業化への道筋	Q-STAR 実行委員会/ 株式会社東芝	岡田 俊輔 氏
12:15	12:35	<b>講演4</b>	量子技術がもたらすビジネス変革の可能性：世界の最新動向とSHIONOGIの取り組み	塩野義製薬株式会社 Classiq Technologies	田島 遼太郎 功刀 隼人 Nir Minerbi 氏
12:35	13:30		休憩		
13:30	13:40	<b>特別講演</b>	データとともに進化する、社会の“日常”	塩野義製薬株式会社	手代木 功
<b>Session2：データサイエンスのこれまでとこれから</b>					
13:40	14:10	<b>基調講演3</b>	データサイエンスのこれまでとこれから	日本アイ・ビー・エム株式会社	山田 敦 氏
14:10	14:25	<b>講演5</b>	SHIONOGIにとってのデータ活用とは	塩野義製薬株式会社	畑中 一浩
14:25	14:40	<b>講演6</b>	データとITのシナジーが生み出す組織の未来	塩野義製薬株式会社	中井 康司
14:40	14:50		休憩		
14:50	15:20	<b>基調講演4</b>	AI・データサイエンスによる業務変革	日本マイクロソフト株式会社	西脇 資哲 氏
15:20	15:40	<b>講演7</b>	目指せ！生成AI利用率100%	塩野義製薬株式会社	西村 亮平
15:40	16:00	<b>講演8</b>	データエンジニアの役割と挑戦 -DX指針×データエンジニアリング×人的資本経営-	塩野義製薬株式会社	今井 雅之 秦 彩乃
16:00	16:10		クロージング	塩野義製薬株式会社	北西 由武

## Session1 | データサイエンスの最前線

### 基調講演1

## AIエージェントが進化する時代の企業の再創造について

キーワード **#次世代AIエージェント** **#デジタルツインエンタープライズ**

生成AIから次世代AIエージェントへの転換期に、企業は経営意思決定から現場オペレーションまでAI協働へ再設計する“デジタルツインエンタープライズ”の実現が不可欠となる。ヘルスケア業界では、社内知見だけでなく、AIエージェントを活用して、技術進展、疾病変異、気候変動、地域規制の動向を多視点で先読みした医薬品開発や、患者の潜在ニーズの発掘による新たな商品開発を検討することも重要だ。今後は生活者1人1人がAIエージェントを持つ時代にもなる。ヘルスケア産業を取り巻く各社の革新の先には、エージェント同士が自律連携し、個人の状態に応じた最適な治療・商材を提案する究極の個別化医療の実現を期待したい。



### 保科学世 氏

アクセンチュア株式会社  
執行役員 データ & AIグループ日本統括 AIセンター長  
アクセンチュア・イノベーション・ハブ東京共同統括 博士（理学）

慶應義塾大学大学院理工学研究科博士課程修了。博士（理学）。アクセンチュアのデータ・AI部門の日本統括として、データドリブン経営改革やAI技術を活用した企業変革を数多く実現。また、先進R&D拠点「アクセンチュア・アドバンスト・AIセンター」の所長として、Accenture AI Hub PlatformやAccenture AI Powered Servicesなど各種開発を統括すると同時に、「アクセンチュア・イノベーション・ハブ東京」の統括として、企業の新規サービス開発も支援。『AI未来シナリオ2030』（日経BP）、『生成AI時代の超仕事術大全』（東洋経済新報社）、『データドリブン経営改革』（日経BP）など著書多数。厚生労働省 臨床研究等ICT基盤構築・人工知能実装研究事業評価委員他、中央省庁にて各種委員を歴任。一般社団法人サーキュラーエコノミー推進機構理事。

## 新生SHIONOGI創薬研究におけるデジタル活用（ケモインフォマティクス）

キーワード

#ケモインフォマティクス

#創薬研究

創薬研究において、デジタル技術活用は今や欠かせない必須の技術となっている。SHIONOGIでは2025年12月にJT医薬事業を新たな仲間として迎え入れ、新たな創薬研究所としての進化、飛躍を目指している。その中でも、デジタル活用は最も重要な変革ポイントの一つである。種々のデジタル活用の中でも、今回はケモインフォマティクスにフォーカスを置き、新生SHIONOGIの創薬研究における活用事例を紹介したい。



### 浅木 敏之

塩野義製薬株式会社  
執行役員 創薬研究本部長

2005年、京都大学大学院薬学科（博士）を修了後、塩野義製薬株式会社へ入社。創薬研究者（薬効薬理）として自社医薬品の創薬研究を担当し、ニューロサイエンス領域の薬理部門長を経験後、2020年4月から教育研修を担うグループ会社社長および、2022年4月から創薬研究支援を担うグループ会社社長を経て、2025年4月より現職。



### 立花 裕樹

塩野義製薬株式会社  
創薬化学研究所長

新卒で塩野義製薬株式会社へ入社。創薬化学研究者として主に医薬品創製に向けた研究や創薬技術基盤構築を担当。前期創薬や抗ウイルス薬の担当グループ長を担当後、2022年7月から事業開発部長、2025年4月より現職。



### 畑 貴広

塩野義製薬株式会社  
医薬総合研究所 i2i-Labo 所長

新卒で日本たばこ産業株式会社（医薬事業部）へ入社。医薬総合研究所 生物研究所 研究員として非臨床薬理研究を担当。同研究所にて、グループリーダー、副所長を経験。その後、i2i-Labo 副所長として計算科学領域を担当したのち、現職。事業承継に伴い塩野義製薬株式会社に転籍。

## SHIONOGIにおける研究DX

キーワード **#研究DX**

製薬会社の研究所で行われる研究は、ヒトを対象としない非臨床研究である。データ取得の対象となるのは、細胞・ウイルス・マウス・モルモットなどであり、得られるデータは画像や動画、波形、DNA配列など多種多様でありマルチモーダルな解析が要求されることも多い。

研究DXを、ユーザの要求理解、ドメイン知識獲得、ソリューションの呈示という3段階で実施した社内事例を紹介する。



### 森本 健太郎

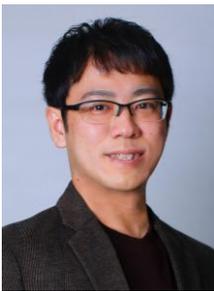
塩野義製薬株式会社  
データサイエンス部 データサイエンス3グループ

大阪大学大学院博士前期課程修了。精密機器メーカーに研究職として入社後、分析機器のデータ解析アルゴリズム開発を経験。2021年に塩野義製薬株式会社に入社し、信号処理やAIに関するプロダクト開発を進めている。

## AIを用いた医薬品の開発/育薬におけるプロセスの効率化

キーワード #生成AI #リアルワールドデータ #育薬

医薬品の臨床開発および販売後のエビデンス創出（育薬）の期間短縮は患者メリットに直結する一方、そのプロセスは多岐にわたり、計画、ドキュメント作成、データ処理・解析から意思決定、規制対応まで多様な成果物が求められる。SHIONOGIデータサイエンス部はこれらのボトルネックを解消すべく、開発/育薬の効率化に向けたソリューション開発を推進している。本発表では、解析プログラム生成の準自動化を起点とした取り組みを俯瞰しつつ、直近の活動として生成AIを用いた規制文書作成支援と、AI-SAS for RWEによるリアルワールドデータ解析の高速化を例に、実務での適用可能性と今後の展望を紹介する。



### 松野 匡志

塩野義製薬株式会社  
データサイエンス部 Generative AIグループ

新卒で塩野義製薬株式会社に入社。医薬情報担当者（MR）として主に基幹病院を中心に、自社医薬品の適正使用のための情報提供活動を担当。その後、人事部門へ異動し、各職種の採用活動を担当した後、社内公募制度によりデータサイエンス部へ異動。解析基盤の管理やデータ活用による社内DX推進に従事し、現在は生成AIを中心とした活動に注力している。生成AIソリューション開発のプロジェクトマネジメントに加え、全社向けの生成AI教育・リテラシー向上施策の推進が現在の主業務。



### 米田 卓司

塩野義製薬株式会社  
データサイエンス部 データサイエンス1グループ

2013年に塩野義製薬株式会社へ新卒入社。安全管理部にて感染症治療薬の安全対策業務を担当後、2017年よりシオノギファーマコビジランスセンター株式会社に出向し、リアルワールドデータを用いた医薬品の安全性・有効性研究に従事。2021年よりデータサイエンス部に所属し、AI-SAS for RWE開発のプロジェクトマネジメントを含めたリアルワールドデータ活用促進が現在の主業務。

# 量子技術の現在地と産業化への道筋

キーワード

#ユースケース

#実装

#産業化政策動向

量子ゲート、量子アニーリング、量子通信など主要な量子技術について、世界各国で進む産業化政策や日本の国策としての量子技術戦略を軸に、その現在地と今後の方向性を概観する。また、日本の産業界を代表するQ-STARが主軸として取り組むユースケース創出と、その実装に向けた具体的な活動を紹介し、加えてすでに実装が始まっているイジング型量子技術については、創薬をはじめとする適用事例を取り上げ、将来の技術革新に向けて産業界が今取り組むべき事項を示す。



## 岡田 俊輔 氏

一般社団法人 量子技術による新産業創出協議会  
(Q-STAR) 実行委員会 委員長  
株式会社東芝 上席常務執行役員 最高デジタル責任者

1985年（株）東芝入社。2015年東芝デジタルソリューションズ（株）設立とともに、執行役員 インダストリアルソリューション事業部長、2019年同社取締役就任し、2022年（株）東芝 執行役上席常務 最高デジタル事業責任者 兼 東芝デジタルソリューションズ（株）取締役社長に就任。現在は、（株）東芝 上席常務執行役員 最高デジタル責任者として、全社のデジタル事業を推進。（一社）量子技術による新産業創出協議会 実行委員長を兼任し、量子技術の社会実装に向けた取り組みを牽引している。

## 量子技術がもたらすビジネス変革の可能性： 世界の最新動向とSHIONOGIの取り組み

キーワード

#量子コンピュータ

#最適化

#量子化学計算

量子コンピュータは、重ね合わせやもつれといった量子力学の原理に基づいた次世代の計算技術で、従来のコンピュータでは膨大な時間を要していた特定の問題において、処理速度が飛躍的に向上すると期待されています。実ビジネスにおいては、研究開発から製造、流通、マーケティングに至るまで、バリューチェーン全体で複雑な計算課題が存在します。量子技術は、業種や領域を問わず、これらの多様な課題において革新をもたらす可能性を秘めています。本講演では、量子技術活用について、グローバルにおける最新動向とSHIONOGIにおける取り組みについてご紹介します。前半はバリューチェーン横断的な視点で、後半は特に創薬プロセスに焦点を当てて、具体的な活用事例を交えながら解説します。



### 田島 遼太郎

塩野義製薬株式会社  
データサイエンス部 データサイエンス1グループ

大阪大学情報科学研究科 修士課程修了。2022年塩野義製薬株式会社に新卒入社。モデリング&シミュレーションやリアルワールドデータを駆使した感染症領域のデータ解析、医薬品供給の安定化に向けた取り組み、ビジネス戦略支援や次世代型データマネジメントシステムの開発など幅広く担当。現在、量子コンピューティング技術の業務適用を見据えた取り組みを進めている。



### 功刀 隼人

塩野義製薬株式会社  
医薬総合研究所 i2i-Labo 主任研究員

2013年日本たばこ産業（JT）医薬探索研究所に入社。分子生物学による疾患標的探索や薬効メカニズムの解明に携わる。バイオインフォマティクスをきっかけに計算科学領域に興味を持ち、現在は創薬研究を加速させるためのAI及び機械学習技術の基盤構築に従事している。

VTR出演



### Nir Minerbi (ニール・ミネルビ)

Classiq Technologies  
Co-Founder & CEO

The co-founder and CEO of Classiq. Nir has a history of leading cutting-edge technology teams and projects to extraordinary outcomes. He has a Master's degree in Physics and is a graduate of the prestigious 'Talpiot' program, described by Forbes magazine as "a Rhodes scholarship, a presidential fellowship, and a Harvard M.B.A. rolled into one".

## データとともに進化する、社会の“日常”

キーワード

#DX推進

#データ利活用

#価値創造

生成AIをはじめとするデジタル技術の急速な進展は、製薬業界を含むヘルスケアの在り方そのものに大きな変革をもたらしつつある。本講演では、こうした時代認識のもと、変革の局面にあるSHIONOGIが目指すVisionと、その実現に向けた基本的な考え方を紹介する。新たなヘルスケア価値創出に向けた挑戦、変革を支える基盤としてのDXの捉え方、「生成AI利用率100%」という目標に込めた意図、一人ひとりの日常における行動の変化が社会の“日常”を進化させていくという視点を通じて、技術を特別なものに留めず、組織と人の日常に根づかせていく重要性を論じる。



### 手代木 功 氏

塩野義製薬株式会社  
代表取締役会長兼社長 CEO

1982年、東京大学薬学部卒業後、塩野義製薬(株)に入社。7年にわたる2度の米国勤務を経て、秘書室長、経営企画部長等を歴任。2002年6月に取締役、2008年4月に代表取締役社長、2022年7月に代表取締役会長兼社長 CEOに就任。社外では、大阪商工会議所副会頭（2010-2023）、日本製薬工業協会会長（2011-2014）、同会副会長（2014-）、国際製薬団体連合会（IFPMA）副会長（2016-2022）、日本製薬団体連合会会長を歴任（2018-2022）。また、(株)三井住友銀行（2021.06-2025.6）、AGC(株)(2022.3-)、(株)日本取引所グループ（2024.6-）、日本IR協議会会長（2024.6-）、(株)三井住友フィナンシャルグループの社外取締役役に就任し、現在に至る。2000年に東京大学・薬学博士取得。

基調講演3

データサイエンスのこれまでとこれから

キーワード

#AI

#データサイエンス

最初にAI技術の進化について、これまでを俯瞰し、これからを考察する。これらのAI技術の進化に伴い、データサイエンティストの仕事がどのように変化するのかについて考える。



山田 敦 氏

日本アイ・ビー・エム株式会社  
コンサルティング事業本部 技術理事

日本IBMに入社し、東京基礎研究所にて、主に3次元形状処理の研究に従事。コンサルティング部門に異動後、2009年に新設された「先進的アナリティクスと最適化」チームのリーダーを務める。2017年よりIBM技術理事。日本IBMのAI倫理チームのリーダーと、データサイエンティスト職のリーダーを務める。博士（工学）。

## SHIONOGIにとってのデータ活用とは

キーワード

#データ活用

#データドリブン経営

#DX

SHIONOGIは、事業環境の急速な変化と経営課題の高度化に対応するため、データを軸とした経営変革に取り組んでいる。データサイエンスやAIを目的ではなく、経営判断の質とスピードを向上させる手段として位置づけ、組織全体での活用を進めてきた。本講演では、コーポレート機能におけるデータ活用の取り組みを幅広く紹介するとともに、SHIONOGIの現状、今後目指すデータ活用の方向性、そしてデータサイエンスへの期待について述べる。



### 畑中 一浩

塩野義製薬株式会社  
上席執行役員 コーポレート管掌

新卒で塩野義製薬株式会社に入社。新薬開発の担当者、責任者として自社医薬品の開発業務を担当。その後、臨床開発部長、プロジェクトマネジメント部長、開発本部長、営業本部長、コーポレート系の本部長を歴任後、現在はコーポレート管掌を務めている。

# データとITのシナジーが生み出す組織の未来

キーワード

#情報システム

#データ活用

SHIONOGIではITモダナイゼーションを進める中で、Fit to Standardの徹底と、導入段階からデータ活用を見据えることが大きな課題となっている。2022年以降、ITとデータサイエンスが密に協議し協業モデルを構築してきた。本講演では、その取り組みで得られた協業のコツや、なお残る論点をIT部門の視点から紹介する。



## 中井 康司

塩野義製薬株式会社

DX推進本部 IT&デジタルソリューション部 部長

新卒で塩野義製薬株式会社に入社。化学研究者として、化学合成を実施するかたわら、ケモインフォマティクス（構造情報分析・化合物評価分析）を実施。その後、人事部にて人事情報の活用や人事システムWorkdayの導入プロジェクトを推進した。その後、情報システムグループ会社のシオノギデジタルサイエンス社長を経て現職。

# AI・データサイエンスによる業務変革

キーワード **#業務変革** **#生産性向上** **#データ利活用**

生成AIの登場から急速な技術革新が進み、さまざまな領域で活用が拡大しています。こうした状況を踏まえ、本講演では最新のマーケット動向やグローバルにおける日本の置かれた状況を紹介しながら、生成AIが社会やビジネスにもたらす変革や具体的な活用事例をご紹介します。また、AI活用における著作権・データ保護の留意点や、今後AIとどのように向き合い活用していくべきかについても、多角的な視点から提言します。



### 西脇 資哲 氏

日本マイクロソフト株式会社  
業務執行役員 エバンジェリスト

1996年から日本オラクルにてプロダクトマーケティングおよびエバンジェリスト。2009年から日本マイクロソフトにて多くの製品・サービスを伝え広めるエバンジェリスト。著書に「プレゼンは”目線”で決まる」、「新エバンジェリスト養成講座」など多数。

## 目指せ! 生成AI利用率100%

キーワード #生成AI

ビジネスシーンにおける生成AIの利活用についての是非については言うまでもなく、誰しもがそのメリットを享受し、創造性や生産性を高めるよう使いこなすことが当たり前になりつつある。とはいえ、業務やスキルの違いによってはそれがうまくいくとは限らない。塩野義製薬においても、明確で確実な解は見つかっていないが、その現在地と今後の進め方について語ってみたい。



## 西村 亮平

塩野義製薬株式会社  
データサイエンス部 Generative AI グループ長

某システムインテグレータ入社、アプリケーション開発の上流工程・PM業務を経て、スキー場パトロール、中小企業”ひとりSE”、ASP事業者”何でも運用屋”など転々とした後、2018年シオノギデジタルサイエンス入社、全社システム/インフラの企画・導入推進を行う。2022年に塩野義製薬 DX 推進本部 IT&デジタルソリューション部へ転籍、全社システム/全社インフラの企画・導入推進・戦略管理グループにてマネジャを務め、2024年10月からデータサイエンス部 Generative AI グループマネジャ着任。広範囲な生成AI利活用に携わる。

## データエンジニアの役割と挑戦 -DX指針×データエンジニアリング×人的資本経営-

キーワード **#DX指針** **#データエンジニアリング** **#人的資本経営**

本発表では、塩野義製薬におけるDX指針を軸に、データエンジニアが担う役割と人的資本経営への挑戦を紹介する。全社DXを支える基盤として、マスタデータ管理、データ基盤のグローバル化、データガバナンス強化を推進し、データを「使える状態」に整えることがSHIONOGIのデータエンジニアの中核的価値である。本発表では勤怠・健康・エンゲージメントなどの分散した人材データを安全かつ統合的に扱うため、同意取得、匿名化、ルール整備を含む設計の重要性を概説する。人的資本を企業価値の源泉と捉え、社内変革と社外協創の両輪で新たなヘルスケア価値創出を目指す取り組みを展望したい。



### 今井 雅之

塩野義製薬株式会社  
データサイエンス部 データエンジニアリング2 グループ長

塩野義製薬株式会社に創薬研究員として入社、疼痛治療薬の研究プロジェクトリーダーを務める。その後コーポレートの経営企画部門に異動、中期経営計画の策定や全社プロジェクトの推進に携わる。その一環で他社とジョイントベンチャーを立ち上げ、その後本ベンチャーにて役員として出向、新規事業の推進に携わる。その後現職、データモデルを活用した新規事業の立ち上げやDX推進本部の企画業務を担当している。



### 秦 彩乃

塩野義製薬株式会社  
データサイエンス部 データエンジニアリング2

2021年、名古屋大学生命農学研究科（博士）を修了後、塩野義製薬株式会社へ入社。データサイエンス部に配属後、感染症領域におけるモデリング&シミュレーションや臨床研究等でのエビデンス構築、CNS領域におけるデータ解析やアルゴリズム構築に取り組み、現在は、健康関連データを含めた社内外のデータ活用の推進、企画立案を担当している。

## お知らせ

昨年2月29日に開催したSHIONOGI DATA SCIENCE FES 2025では、約1,100名の方にご参加いただき、ご好評のうちに終了いたしました。前回のイベントレポート及びアーカイブ動画は下記からご確認ください。

### ■ SHIONOGI DATA SCIENCE FES アフターレポート（2025年）

<https://shionogicoltd.github.io/shionogi-data-science-dept-site/events/ds-fes-2025>

また、本イベントは、「Peatix コミュニティアワード2025」において、テクノロジー/イノベーション賞を受賞しました。Peatixコミュニティアワード2025は、日本国内で活動する様々なコミュニティの取り組みを表彰するプログラムで、開催初年度である2025年度は、地域に根ざした活動から、オンライン空間での取り組み、社会課題の解決、企業における取り組みなど、約450ものエントリーがありました。

「SHIONOGI DATA SCIENCE FES」を通じて、データサイエンティストをはじめ、これまでデータサイエンスに触れたことのなかった方々にもその魅力を伝え、スキル向上のためのコミュニティやネットワーキングの場を提供し、日本のデータサイエンスのレベルの向上と「協創」の場の創出に寄与した点を評価され、今回の受賞となりました。

### ■ Peatixコミュニティアワード

<https://feature.peatix.com/ja/community-awards>

## お問い合わせ先

本イベントに関するお問い合わせは、以下へとお問い合わせください。

### ■ SHIONOGI DATA SCIENCE FES 事務局（塩野義製薬 データサイエンス部）

mail : [dsfes\\_info@shionogi.co.jp](mailto:dsfes_info@shionogi.co.jp)